

第35回中小企業政策審議会総会 意見書

2022年6月22日 伊藤 聡子

本日は欠席するため、事務局資料の論点について意見を提出させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

1. 地域の中小企業の女性活躍について

地域の中小企業がより優秀な人材を獲得できるようにするために、若い方にとって、やりがいのある仕事、働きやすい環境を生むことが重要だと考えております。特に、地方から若い女性が流出しており、更なる少子化の進行が懸念されている現状では、女性が活躍できる場を地域の中小企業に用意することが重要だと考えています。DX等を通じた働きやすい環境の整備、多様な働き方を認める環境の整備に対する支援が重要だと考えます。

2. サーキュラーエコノミー・地域資源の活用について

サーキュラーエコノミーについて、脱炭素、輸入価格高騰や資源確保の難しさなどに直面し、大企業も自然・国産品で代替する流れが大きくなっていることを踏まえ、今後は、今まで見過ごされ、捨てられたようなものであっても、地域の自然資源が宝になってくる可能性があります。どのようなジャンルの中小企業にとっても、地域に宝があるかもしれないという認識で臨むことが大切です。サーキュラーエコノミーの観点での事業化支援があってもよいと考えます。

3. サプライチェーン構造について

サプライチェーンの議論について、中小企業と依頼先である大企業との縦割り・1社対1社の関係が多いと感じます。燕三条や愛知県の自動車下請企業の事例にもあるように、もう少し中小企業同士で連携することで、受注機会の確保（IoTでの工場の稼働状況の中小企業同士での共有など）や各社の得意分野を生かした大きな受注につながると考えます。小さくても連携したことにより補助を受けられるというように、連携を政策で後押しすることが大切ではないでしょうか。

4. 中小企業と大企業の人材交流について

人材の学びなおし・経験豊かな人材の育成のために、大企業が兼業・副業の形で地方の中小企業に社員を送り込むケースがあります。逆に、中小企業から大企業へ人材が移動する流れ・交流を促進する支援があってもよいと考えます。実際、地方の中小企業だけの環境で学ぶことは大変ですので、他の企業での様々な経験を後押しする施策があってもよいのではないのでしょうか。

5. 中小企業同士のコミュニティ

現状でも、商工会議所・商工会・法人会等の集まる会はあるものの、こうしたコミュニティをもう少し活用して、連携・イノベーションを生み出す会にできるのではないかと考えています。